

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)	川西市環境審議会		
事 務 局 (担当課)	美化環境部 美化環境室 環境創造課 内線(2930)		
開 催 日 時	平成28年4月25日(月)14時00分～16時30分		
開 催 場 所	川西市役所 4階 庁議室		
出 席 者	委 員	木下委員(会長)・武田委員・西村委員・横谷委員・加藤委員・井口委員・豊福委員・津田委員・中野委員・樋口委員	
	そ の 他		
	事 務 局	美化環境部長 : 米田 勝也 環境創造課長 : 西田 啓治 環境創造課主査 : 柳本 一志 環境創造課 : 八尾 増美	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	【議 事】 川西市環境基本計画の改定について 【そ の 他】		
会 議 結 果	詳細は審議経過のとおり		

審 議 経 過

会長	<p>本日は「現行計画の進捗状況評価」、「川西市環境に関する意識調査結果」、「川西市の現況と課題」、「川西市環境基本計画の骨子案」の4つの議題について議論を進めていく。</p> <p>まずは「現行計画の進捗状況評価」について資料をもとに議論を進めていきたい。</p>
議題1 「現行計画の進捗状況評価」について	
会長	<p>資料1のp2の歴史文化的環境において、H24年度まで目標値が設定されていたにもかかわらず、H25年度、H26年度の目標値が設定されていないものがある。こういった経緯で目標値が未設定になったのか。</p>
事務局	<p>担当部署に問い合わせしてみたが、明確な回答は得られなかった。本項目以外にもこのような目標値が未設定の項目があり、これは本計画の進捗状況を管理していく上での問題点であり、本計画改定にあたっての課題の一つとして考えている。</p>
委員	<p>年度ごとの実績値の評価と目標値達成率の関係性が不明である。どのような評価方法によって目標達成率が算出されているのか。</p>
会長	<p>目標達成率はH19年度からH26年度までの8年間における業務の進捗状況を示した指標であり、目標値が設定されている年度（設定数）のうち実績値が目標値に達した年度（達成数）の数の割合から算出されている。目標に達したか・達していないかというカウントで、目標達成率が算出されている。</p>
委員	<p>8(年間)のうち、何回達成したかという指数ということですね。</p>
委員	<p>目標値の設定が毎年変わっている項目が複数見られるが、進捗管理を行う場合、通年的に目標値を設定するのが一般的ではないか。途中で目標を変更するのは珍しいと思う。途中で目標値の設定を変更する場合は、変更せざるを得ない理由があったのではないかと等、目標設定の仕方に改善の余地があるのではないかと。施策 1-1-4(丹波少年自然の家運営事業)について、目標未達成となっているが、実際には取り組み自体が衰退したわけではなく、背景には生徒数の減少といった理由があると思う。現行の指標では現況を評価しきれていないように感じる。</p>
会長	<p>目標値の設定を、一定値にするか、流動的にするか、という問題がありますね。</p>
委員	<p>このような項目に関しては、実数ではなく割合で評価した方がよいのではないかと。</p>
会長	<p>目標設定の方法が明確ではないと思う。次回の計画を立てるときは、目標設定の方法を明確にすべきだ。</p>
委員	<p>1-1-6(地域活動支援事業「自然ふれあい講座」)のH26年度実績値について、雨天による講座の開催中止を鑑みても、初年度に比べ参加者数が極</p>

	<p>端に少ないように感じる。この人数のカウント方法は、こども若者政策課の実施している事業への参加人数なのか。</p>
事務局	<p>同項目についての評価はこども若者政策課が実施し、把握しているものである。</p>
委員	<p>たとえば、地域活動の一環として行った講座でも 50 名程度の参加者が集まったことから、現行の進捗状況評価では市域全体での環境に関する教育的取組みの現況が表れていないように感じる。教育の面で、子供たちが自然と触れ合う機会はとても重要だと思う。予算の都合で開催回数が 6 回から 4 回に変更になったのかもしれないが、人数が少なすぎる印象をうける。このような書き方のみでは環境教育に意欲が足りないように感じる。予算をもっとつけることを要望する。</p>
委員	<p>施策 2-2-1 (汚水管きよ等整備) 及び 2-2-2 (雨水管きよ等整備、浸水対策) について、基本的には設備の新設、増設であり不確定要素が少ないにも関わらず、目標値を達成できていないのは何故か。予算の関係なのか。予測できないような項目ではないように見える。</p>
会長	<p>やはり目標設定の根拠が不足している印象をうける。また、市が主催しているもののみの把握になっており、コミュニティレベルでの主催していることの全体像の把握は難しいのだろうか。</p> <p>また、目標未設定の項目を見ていくと、理由は「指標の設定はむずかしいので、今後検討したい」というものが多いが、疑問に感じる。以前の環境基本計画の指標に入っているものもある。目標の設定をしていない、または、難しい等で、議論に挙がらない項目があるが、そのあたりはどう考えるか。</p>
委員	<p>進捗状況評価の目標未設定分について、「生活環境」の除草面積などは、目標を立てるようなものではないと思う。すべき箇所を除草すればよいと思うし、目標を立てたからその面積を除草しなくてはならない、ということでもないと思う。ごみの量でも、積み残しなどはできないだろう。事業系のごみを減らす、という目標であれば理解できる。結局は、予算がありきなので、全体量を把握していないと予算がたてられないと思う。</p>
委員	<p>明確な理由がなく目標値が設定されていないのは好ましくない状況である。目標値未設定項目については、目標を設定しない根拠を明らかにした上で進捗管理に用いるかの是非を問うべきである。</p>

会長	<p>その通りだと思う。毎年こういった環境の現況を提出してもらっているが、その中には目標の有無にかかわらず、ここにあるような項目が表で示されている。この中では、前年より、減ったや増えた等の目標はたてられていない。</p> <p>目標を立てるということが難しいのかもしれないが、ただ増えた、減ったのみではなく、「この程度にしたい」という明確な目標があってもよいように感じる。</p>
委員	<p>現状の進捗状況評価では、行った施策の結果が列挙されているだけで、施策を行った結果どのように市内の環境及び市民の意識が変わったのか不明瞭である。本計画では市による施策の進捗度合と併せて、市内の環境及び市民の意識の変化が分かる項目を進捗管理指標として追加したい。</p>
会長	<p>さきほどの委員の議論であったように、目標値を設定するのは、どのような根拠があったからというのを明確に書いて、それに向かい進んでいくということが市民に対するひとつのアピールであり、目標値に向かう動機になると考える。</p>
委員	<p>1-2-1 (EM(有用微生物分)活用による学校環境改善事業)及び 1-2-2 (EM(有用微生物分)活用による保育所改善事業)について、H26年度時点までの結果しか示されていないが、H27年度以降の動向はどのようになっているのか。</p>
事務局	<p>H27年度の動向については本年度の集計で明らかになる予定であり、現時点では本データが最新です。</p>
会長	<p>検討が必要というのは、現在継続中ということなのか。</p>
事務局	<p>現在終わっているわけではないと思うが、今年度行っているかは不明である。</p>
木下会長	<p>本回答を書いてもらったのは、最近書いてもらったということか。</p>
事務局	<p>すべてを今年度書いたわけではない。当時の回答を記入してもらっている。</p>
木下会長	<p>平成26年度に対する回答というわけでよいか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
木下会長	<p>最新のものではなく、その後はまだわからないということですね。</p>
委員	<p>1-2-1 (EM (有用微生物) 活用による学校環境改善事業) について、学校耐震化工事と併せてトイレ廻りの環境が大幅に改善された。そのため、現在 EM を用いた清掃活動は一部を除き、行われていないと考えられる。</p>
木下会長	<p>目標の立て方とそれに対する評価の仕方も含め、27年度分は、いつごろ集計するのか。</p>
事務局	<p>例年は夏ごろに行っているが、早めようと思えば、早めることも可能だと思う。</p>

木下会長	夏でもいいと思うが、今回は、もう少し詳細に書いてもらい、どのように目標を設定しているのか、目標に達成してないのはどうしてか、あるいは、目標を定めていないのはどうしてか、というのを各項目ごとに説明を詳しく書いてもらいたいと思う。
委員	目標値未設定施策の「事業所への廃棄物減量化計画書の作成依頼」では H19 年度から H26 年度までの目標値が未設定の状態になっているが、一般廃棄物の排出量抑制に関する取り組みは、一般廃棄物処理基本計画内で数値目標（一人一日当たり 100 g 削減）を定め実施している。これにより、一般廃棄物の排出量は一定値まで削減が見られ、川西市は兵庫県の平均程度の量になってきた。しかし、まだ、川西市は兵庫県全体で見るとごみの量は多いほうだ。また、川西市は事業者が少ないため、事業ごみよりも、家庭ごみをへらす方向が望ましいと思う。そういった観点では、きちんと数値目標が設定されており、かなりいいところまで達成されているように見える。だが、この表のような集計になると、前年より少量増えたことが、達成未達のように見受けられてしまうこともある。また、今までは川西市は大型ごみが無料だったため、ほかの市からもごみが入っているのではないかと、というような背景があったことから、今後は大型ごみの有料化により、この値が正しい値に戻るのではないかと考える。
事務局	さきほどの数値目標が年度ごとに変更しているというのは、総合計画が第 4 次から第 5 次が変わったのが 25 年度なので、その影響によって変更しているのではないかとと思われる。 また、下水の話では、予算だけの問題ではなく、権利者や地形的な問題があると思われる。その中で目標の設定が 100% となっているので、達成が困難になっていると思われる。また、ごみの減量については、一般ごみの量は順調に下がっているところであり、前回の計画は達成できているのだが、今後さらに減らす取り組みを行う必要があると考えている。全体的にみて、目標設定項目については、これらの項目がすべて環境改善に関連しているかが十分に考えられているのかが疑問な点もある。指摘のように、目標の設定に対して精査を行うことは必要だ。これを踏まえ、次の計画にどのような目標を達成すれば環境が良くなるかというのを議論していただければありがたいと考えています。
木下会長	一つ一つの項目に対し、設定した各部署に詳しく書いてもらい、次回の目標設定に生かしたい。単に検討中などと書かれていても、次回の目標設定につながらないと思う。前回の反省も踏まえ、次回の指標を立てていきたいので、27 年度のデータができた時点で、各部署にもう少し詳細書いてもらうというのでどうでしょうか。
議題 2 「川西市環境に関する意識調査結果」について	

委員	意識調査の結果をどのように本計画にフィードバックするのか。様々な問題点の項目が出てきているが、この項目が、先ほどの資料 1 の分野ごとに分けることができ、そして、どの部署が担当して推進していくのかが分かれると思うのだが、そこまでは考えているのか。あくまで意識調査をした結果がこのようになった、ということまでなのか。
会長	この後になるが、資料 3「川西市の現況と課題の整理」で挙げられた 9 つの項目内に反映されている。詳しくは本議題の後に続く議題 3「川西市の現況と課題」で議論したい。
委員	資料 3 の p6「環境教育・環境学習を実施する上で市に手伝って欲しいこと」について、学校教員の回答を見ると専門家の派遣、紹介、ノウハウを学ぶ機会の不足が問題になっている。さきほどは地域と学校が協働して学校の教育を、という視点が出ていたと思うが、学校側からみると、環境に対する専門家がいらない、または予算がないという意味ではないだろうか。国の考え方がこういうところに反映されているのかと思う。したがって、環境教育については、今後の在り方としては県が学校に対して環境の専門家を何らかの形で育成をする等、必要ではないか。自治会は現場としていろいろやっているが、こどもの教育はなかなか自治会では行えなくて、学校で行われるものだと思うが、こうしてみると学校の現場でも専門家が不足している、そのような SOS を発しているというデータであると思う。市・県が、あるいは国に対して努力する目標が表れているのではないかと考える。
委員	今の意見はその通りだと思う。県では様々な環境分野の専門家（グリーンサポーター）の紹介及び派遣を通して、教育機関との連携をとっている。また、小学 3 年に自然環境学習があるため、教員が初めて環境教育に携わる際に、教員自身が体験を得られるよう、研修の機会を年 1 回設けているが、教員への環境教育は課題と感じている。
委員	当然、専門家の派遣は必要だと思うが、先生自体の理解度が低く、専門家に丸投げでは効果が上がらないと思う。むしろ、環境教育を推進するにあたり、教員の環境教育が重要であると考えます。
会長	先生に対する学習が必要だという意見は今までなかった新しい意見だ。非常に重要な課題だと思う。 生物多様性に対するアンケートを見ると、自治会は「生物多様性」という言葉も意味も知っていたというのが 50%、市民団体は 93%、学校の先生も半数は知っているということがわかる。ただ、川西戦略について内容を知っていたというのは、自治会は約 1 割、市民団体は 7 割ぐらい知っているが、学校の先生は 0 に近いことがわかる。
委員	これは問題ではないか。市が宣伝をもっとしなくてはいいだろう。学校の先生が知らないというのは問題である。

会長	川西のシンボリック的存在である猪名川のイメージについて、あまり親しみを感じていないという結果になっている。それは、地域別の集計を見てみると、川西北部では猪名川に自然豊かさを感じるとなっているが、南部では逆に自然が豊かではなく、むしろ汚いというイメージがあるのではないかと。猪名川ひとつとらえても、地域によってとらえられ方が異なっている。黒川などは、その傾向が顕著になっており、名前としては知られていても、身近にはほぼ感じていないという認識の人が多いようだ。交通の便や、人の受け入れ態勢が問題なのだろうか。
委員	資料2のp2「猪名川のイメージ」について、各主体で「親しみを感じる」と回答するものが少ない傾向にあるのは、実際に川で安全に遊べる場所が少ないからではないか。川があるだけでは親しみを感じないのではないかと。
会長	子ども達の川に対する認識は、「危ない場所」となっているように思われる。昔と違い、今は「川は危ない」という教育に変わってきているのではないかと。そうすると、川との距離が遠ざかっているのではないかとと思われる。
委員	猪名川のイメージについて、地域ごとに様々な環境政策が行われており、これらの差が、アンケート結果に表れているのか。たとえば、川西でいえば、川西市役所近くのドラゴン公園の川の様子はここ10年来、変化してきて、子供が川に入って遊べるようになっている。そのあたりでは、10年前とは違う状況になっていると思うが、地域差がでてきている。逆に、行動が制限された場所もあり、川との親しみの差が読み取れない。地域的な差がでてきているとすれば、たとえば、ドラゴン公園の猪名川水域の計画は、環境に対してある意味面白い動きになっているという結び付けができる。
会長	猪名川のイメージについて「地域別集計」を参照すると、経年の変化を見ないとなんとも言えないが、地域ごとの傾向が少なからず表れている。
委員	川西市域における猪名川河川の内、滝山以北の県管理区間では河川の改修が完了していない。何年かに1度の河川の氾濫で、その都度何千万の費用がかかる状況である。他市と比較すると状況が悪い河川であることから、県・国の力を借りて、また、子供を遊ばせる場合も、教育の一環として指導者がついて、そのような水遊びさせるという自然体験が必要であるような状況である。
議題3 「川西市の現況と課題」について	

会長	環境学習において、教員の学習が必要だという課題が浮かびあがってきているが、項目別にされているため、対象物(里山・教育・河川)として分類されていないため、一つの対象物に対して強く課題が表面に出てきていないように感じる。
委員	資料3の課題の整理は9項目になっていて、先ほどの資料2の意識調査の結果と必ずしも連動する必要はないと思うが、しかし、アンケート調査の結果、少なくとも「歩道の通行のしやすさ」や「環境教育の重要さ」が非常に大事だということがわかっている。そのため、その項目が、この現況の課題の中に出てこない、何のためのアンケートかわからない。重要な項目は、資料3に出てくるべきではないか。里山の現況と課題も大切であることは分かっているが、アンケートからわかっていることは、それ以上に市民が重要だと感じていることが本資料のどこかに反映されてないとおかしいと感じる。
会長	同感です。場所別に里山が重要・川が重要というのは理解できるが、対象別に何を行うのが課題に出てきていないように感じる。
委員	資料1、2、3の連動性が分からない。全体の体系の中で、どのように連動しているのかをはっきりさせるべきではないか。現状はすべての資料が独立しているように見える。たとえば、先ほどのごみ・リサイクルの話にしても、一般廃棄物処理基本計画というものがあるわけで、そこも連動させて計画を立てないと、各自が独立しているのでは、全体が少しずつずれて、矛盾点がでてくると思う。資料4のp2に、全体像があるが、それに合致するような流れにすべきだ。
委託業者	現在、さまざまな場所から、情報を集めている状況である。今回資料4で骨子を示しているが、この内容をつめていくにあたっては、今後様々な情報を集約して、整合が取れるように、次回、示していきたい。
委員	後で混乱しないためにも、流れをきちんとつくりたい。少なくとも、資料2と資料3は資料名も同じようなものなわけだから、項目別に抜き書きするより、重要性に応じて書いていくべきだと思う。
委員	これまでの資料で様々な問題や課題が提示されたが、どこを優先して対策すべきか、何が川西市で重要なのか、優先順位を明らかにするような議論をするべきではないか。すべてを同時に行うのは不可能に近いので、PDCAサイクルにのっとり、少しずつよくなるように繰り返し行い、達成するという方法で行うのはどうか。本日はまず、さまざまな課題を持つ中から、優先順位を決める議論になればいいと考える。

委員	<p>おっしゃるとおりだと思います。その優先順位を決める根拠として、このアンケートなどから引用しようとしているので、連動性を持って議論を行わないと、優先順位がわからないと思う。本アンケートは、かなり具体的に課題が見えているため、ここから引用したほうがいいと思う。</p> <p>行政計画なのでちゃんと根拠があり、上位計画と個別計画がどのように連動しているか、それらが提示されていないといけない。</p>
会長	<p>現行計画が土台になって新しい計画が作られるので、現行計画で取り扱った課題を本計画ではどのように取り扱うのか。除外する項目、新たに追加する項目があるならば、その根拠を明確にする必要がある。たとえば、農地について前回の基本計画に書かれていなかったことが今回議題にあがっている、交通に関するものでは、アンケートに出ていて、前回の基本計画には書かれているのに、今回はなくなっている、といった点について、根拠や前の計画との関連性が見えてこない印象を受ける。「アンケート結果から今回はこうします」など、根拠やつながりがみえてくれば、非常にわかりやすいと思う。</p> <p>突然に9項目が出てきていて9項目すべての重要性は理解できるが、関連性が見えてこないというのは、各項目のつながりがみえてきていないからではないか。</p>
委員	<p>そのとおりだと思います。意識調査の結果から、課題が浮かび上がっていると思う。前回の基本理念で、今回のアンケートの重要度が反映されていないものに関してはぜひ、反映させてほしい。たとえば、「歩道の安全」に対する問題は深刻であることが分かる。歩くというのは健康の意識からしても非常に大切なテーマである上に、アンケート結果からわかることは、市民が大きな負担を感じているということが読み取れる。市のみでどこまで対応できるかは難しいが、環境最優先の視点だけでなく、住民目線の「歩道の安全」というような問題について、どう切り込んでいくかというのはとても大切であると思う。対策を取っていくことは非常に困難であると予想されるが、重要な課題の一つとして本計画で取り扱ってほしい。</p>
委員	<p>市民の意識調査も重要ではあると思うが、本計画は、先を見越した計画にしなければならない。自然環境などは、一度破壊されたら元に戻らない危機感を持つべきではないか。また、農業の課題は生物多様性の課題に直結するように、課題は多岐にわたる。そのため、一分野の課題としてとらえるのではなく、全体の活性化をにらんで計画を作っていければよいのではと考える。</p>

委員	資料3のp6「6.都市景観の現況と課題」について、最終的に課題として整理されているのが「ゴミ問題」だけに留まっているのは不十分ではないか。地域特性に応じた景観形成や美化など、都市景観としての課題があるのではないか。確かに都市部にはそういった問題があるだろうが、このゴミ問題のみに集約されるのは不十分だと感じる。
会長	以上の議論から、この資料は、かなりの変更が必要だろう。
委員	資料2のp2「誇りに思う環境」について、複数回答ありのアンケートだと思うが、自治会の回答数の合計が全回答者数よりも少なく、市民が誇りに思う環境がないと思っている自治会が多いのではないか。
会長	本項目は、複数回答の選択式アンケートではなく、自由回答欄に「誇りに思う環境」について記述してもらい、次の欄で「それはどこですか、そう思う理由」という内容で、記述してもらったものを集約したものである。
委員	資料2のp2「誇りに思う環境」について、他市との比較を問う設問にすれば回答しやすかったのではないか。「誇りに思う・思わない」という主観的な感覚を問う設問はかなり難しいのではなかつと思う。 私見ではあるが、川西市の道路環境は他市と比較しても整備が進んでいると感じる。また、他の環境に関しても良好な状態を保っていると感じる。突出した良い点を挙げるよりも、比較という観点から議論をするのがよいのではないか。
委員	資料3「川西市の現況と課題」について、9項目に分類して整理を行っているが、資料1の現行計画の施策体系項目に当てはめて整理を行えば、進捗状況が明確になり、担当部署も明確になるのではないか。
会長	前回の環境基本計画は大きな4項目の中に、小さな項目があった。
委員	環境基本計画という大きな枠組みの中で、里山という詳細な項目がすぐに出てくるかと考えると、違和感があり、もう少し、大きいまとまりで考えるべきだと思う。資料3も資料1のように分類するほうがよいと考える。
会長	施策体系については次の議題で議論したいと思う。
議題4 「川西市環境基本計画の骨子案」について	
委員	意識調査で課題に挙げた「歩道の安全」や「環境学習」などの項目について、資料4のp2「第2章 川西市の環境の現況と課題」に整理して記載することを求める。特にこの2つの課題はとても重要な課題だと認識している。必ず新しい環境基本計画に盛り込まなければ、対策が進まないと思う。

委託業者	環境教育・環境学習の項目については、すべての項目にまたがるため、どこか一つの分野に集約するよりも、一つの分野として独立させるか、あるいは、すべての環境に対する土台の欄にまとめる方法もあると考えている。
会長	資料4のp1「1.2 環境問題の動向と計画の対象範囲」に計画の対象範囲の図があるが、一般的な「都市環境」の対象範囲は非常に広く、本計画の「都市環境」ではどこまでを対象範囲にするか検討が必要である。また、「環境学習」のように全ての項目にまたがって関連するような課題については図に示された4項目に追加する形で、独立した新たな項目として整理すべきではないか。
委員	分野をまたぐ項目はどうすればよいか。
会長	「生活環境」「都市環境」の使い分けはどのようにすればよいか。
委託業者	生活環境と都市環境を分けているのは、川西市環境基本条例の基本方針から引用している。 今回の資料4の図はあくまでひとつの案として示している。
会長	都市環境というのは、都市の安全性や、保健性、快適性、文化性、教育環境等、とても広い意味を含んでいる。国の環境基本法には、都市環境という言葉は出てこなく、代わりに、生活環境・自然環境・地球環境の3つが用いられている。
委員	今回議論を行っている都市環境は、景観や歴史的な文化のことを指していて、ごみなどは地球環境を指す。しかし、先ほどの資料で、ごみ問題が都市環境の分野に統合されていたため、疑問を感じた。
委員	川西市環境基本計画というのは川西総合計画の下位にあり、横並びで、緑の基本計画や都市計画マスタープラン等複数の計画がある。全部環境に関係している箇所が多数あり、その整合性はどうなっているのか。また、自然環境においては、地域戦略に書き込まれていることから、今回の環境基本計画はどこまで、記述すべきなのか。
委託業者	本計画では関連計画及び下位計画等で位置づけられた施策についても整合を図る予定である。
委員	資料4のp6「(参考) 現行計画における施策体系」について、環境配慮指針で、生活環境の欄に「大気汚染を起こす自動車や工場の排ガスを減らす」とあるが、川西市では工場は少なく、自動車排ガスによる大気汚染と並列に記載するのは適切ではないと考える。また、地球環境の欄に「電気やガス、ガソリンなどの消費量を削減する」とあるが、この項目について、よりわかりやすい表現はないだろうか。公共交通の分野で、車の利用についての課題も挙がっていたため、その分野と一緒に課題解決する必要があると考える。
委員	都市環境と歴史的文化的環境という概念は統一すべきだと思う。

委員	今後の進捗管理を考える上で、環境分野ごとに、対応する担当部署との整合を図った方が良いと考える。歴史的文化的環境というのは教育振興部というところが担当するのであっているか。
会長	そうだと思う。市民生活部も一部入っているようである。
委員	そういった観点からいえば、電気・ガスなどの削減における分野は地球環境というよりは、生活環境に分類してもらった方が良いと考える。現在は地球環境といえば、地球や宇宙の問題を指すことが多い。資料4のp1「1.2 環境問題の動向と計画の対象範囲」の「(参考)計画の対象範囲(案)」について、分野の重なりが多すぎてどの分野が何を対象としているかわからない。
会長	今一度分野の見直しを行い、環境教育についてもかなり重要な項目であるので、前面に出てくるようにしたい。資料4の図にとらわれずに進めていきたい。
委員	資料4の絵は重なりが大きすぎるように感じる。より簡潔にすることを求める。
委託業者	p1の「(参考)計画の対象範囲(案)」は条例で対象としている環境の4分野を大まかに示したものであり、施策体系を整理する際はどの分野にどの内容を含めるか整理する必要があると認識している。分野の区分には明確な正解はないが、川西の実状に合った区分で、条例や現行計画との整合、担当部署との整合などにも配慮して、次回審議会に案をお示ししたいと考えている。
会長	資料1から資料3までの一連のつながり及び現行計画とのつながりを明確にした上で、再度課題の整理をされたい。